

ワークショップ②

「各市町の困りごと分析と支援チームとの連携」プログラム

クロスロード

オリエンテーション

訓練ワーキンググループ
2日目担当者

これからのプログラムについて

- ◆ 12:15 オリエンテーション
- ◆ 12:30 ワーク①
シミュレーションプログラム「クロスロード」
- ◆ 12:55 ワーク②
シークレットプログラム
- ◆ 13:30 ワーク①②の共有
- ◆ 13:45 終了(移動)

終了後、昨日、今日の訓練の全体の振り返りを
おこないます

ワーク① シミュレーションプログラム「クロスロード」

- ◆ 災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を参考にしたシミュレーションワークショップを実施します。
 - ◆ とある「お題」に対し、災害時をイメージしながら、自分の行動を考えてみます。
 - ◆ 限られた情報の中で、直感的に行動(判断)してもらいます。行動(判断)は「A案・B案」で。
 - ◆ その後、「なぜA案なのか」「なぜB案なのか」を、グループ内でその理由を出し合ってください。
 - ◆ 基本的に「お題」に対して、正解はありません。多くの場合、A案の行動(判断)も、B案の行動(判断)もアリなはずです。

クロスロードの目的

- ◆ 災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士共有すること。
- ◆ 災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないこともある。ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくこと。
 - ◆ 災害対応カードゲーム「クロスロード」は、内閣府「災害被害を軽減する国民運動に関する懇談会」の中で注目されたプログラムでもあります。今日は、このクロスロードを参考にしたシミュレーションを実施します。



クロスロードの例

- ◆ あなたは小学生の母親—
 - ◆ 「安全」との診断がおりた避難所暮らしは、余震が続く中、安心ではあるが、このところの寒さで風邪が大流行中。幼い我が子に風邪がうつるのではと心配
 - ◆ 避難所を出て、半壊状態の我が家に戻る？

A案(戻る) or B案(戻らない)

- ◆ どちらの例も、普遍的な正解があるわけではありません。
- ◆ その時の状況にならなければ、最終的な自分の判断ができないというのも当たり前のことです。
- ◆ それぞれ(個人・家族・地域・職場・・・)で判断するための材料があり、それぞれの事情をなるべく事前に理解しておくことが重要です。

5つのお題

- ◆ これから大地震が発生した後を想定した5つのお題（クロスロード）を出題します。
 - ◆ 限られた情報だけです
 - ◆ 自分が「市町災害ボランティア本部のスタッフ」だと仮定してください
 - ◆ その中で自分なりに判断して、「二者択一」を選んでみてください
 - ◆ 正解はありません
 - ◆ 正解を出すのではなく、なぜそう思うのか、なぜそう思わないのか、をそれぞれ考えてみてください

A案か？B案か？

- ◆ まずは、5つのお題と、A案B案を読んでいただき、班の中で「A案→●名」「B案→◆名」と結論を出してください
 - ◆ A案B案ともに気に食わない案だとしても、A案かB案か、どちらかを必ず選んでください
 - ◆ お題①～⑤で10分以内に結論をお願いします
- ◆ その後、「なぜA案だったのか」「なぜB案だったのか」、その理由を挙げてみてください
 - ◆ 「A案じゃないからB案」「どちらか選べと言われればA案」という理由でも問題ありませんが、なるべく選んだ案に共感したところも挙げてもらえるとありがたいと思います
 - ◆ お題①～⑤で15分以内に理由をあげてください

シークレットプログラム：C案D案づくり

- ◆ 5つのお題の中で、A案でもなく、B案でもない、C案を班の中で考えてみてください
- ◆ A、もしくはBが最も良い案と判断すれば、それがCでも構いません。AとBの折衷案でも構いません。まったく別の案でも構いません
- ◆ グループの全員の意見を聞きながら、グループで最終案となるCを考えてみてください
- ◆ 10分でC案を考えてみてください

- ◆ また、C案を実施するために、災害前に取り組むべきことを考えて、D案を考えてみてください

共有

- ◆ D案の共有
 - ◆ どの設問に対してD案を作成したのか教えてください
 - ◆ D案を発表してください
 - ◆ 発表する時間は1～2分でお願いします

ご苦労さまでした

- ◆ 時間がない中で、バタバタといろいろなことを考えていただき、本当にご苦労さまでした
- ◆ 今回のプログラムで使用した「設問」は、過去のこれまでの災害で、実際にあったことを中心に作成されています
- ◆ 実際の災害時には、即断即決を求められるケースも多く、被災者に寄り添うC案(アクションプラン)が実施できないことも多いのが現状です

- ◆ これまでの災害から得た経験や、学んだ教訓を生かし、これまで以上に地域を知り、想像力を働かせて、さまざまな方々と連携・協働して、災害前の活動を実施していく必要があると思います
- ◆ 今回のプログラムが、その小さな第一歩になればと思います作成してきました
- ◆ やりきれなかった設問については、是非とも地域の中で考えていただければと思います
- ◆ そして、是非ともD案をこの一年間で実施してみてください